

2019年
2月25日(月)
5月25日(土)

東北学院大学
博物館

新浜で繋がる、 自然・ひと・歴史



仙台市宮城野区の東部に位置する新浜は、17世紀初頭から400年の歴史が続いてきた海辺の集落です。東日本大震災の津波により甚大な被害を受けましたが、町内会を中心に復興まちづくりの指針がまとまり、市民や行政、大学などの協働による支援の取り組みが進んでいます。

一方、新浜の砂浜や砂丘、湿地の生きものとその生活環境も、予想を超える速さと広がりでも回復してきています。被災から蘇りつつある生態系の今後を見守り、この地が続いてきた暮らしの伝統を振り返る試みを、新浜の安全安心の備えのひとつとして活かしたい。そうした思いで開始した東北学院大学を中心とする研究者とゼミ学生による共同研究の成果をご紹介します。

主催 東北学院大学学長研究助成金「生態系サービスの享受を最大化する‘里浜復興シナリオ’創出」プロジェクト、東北学院大学博物館、東北学院大学教養学部平吹ゼミ・文学部菊池ゼミ、南蒲生/砂浜海岸エコトーンモニタリングネットワーク、「地域の自然と歴史に学ぶ」研究会

協力 新浜町内会、カントリーパーク新浜